

平安書道会事務局だより

九十一回公募展報告



【今年も暑い祭りが始まりました】

平安書道会書道会は、京都で生まれた歴史の古い書道の団体です。平成二十二年には創立九十周年を迎えました。

今年は、台風一過で去年とすずしい一週間でした。七月二十一日の木曜日から二十四日の日曜日まで、毎日多くの見学者が訪れました。特に今回は京都市美術館でフェルメール展が同時開催であったため外国人などの見学者の幅を広げていたような気がします。今年もおおくの方が特別賞を授与されました。

受賞者が授賞式は
理事長の案で、試みに
特別賞受賞された方の中から取材して、ここに
ご紹介したいと思います。

毎日新聞受賞者の堀琴乃さんは、小松市国府小学校六年生。選んだ字が「堅忍不拔」。難しそうですが「けんにんふばつ」と読みます。言葉はお母様が選ばれたそうで、大相撲の若花田が横綱になったときに使って有名になりました。

「どんなことがあつても心を動かさず、じつと我慢して堪え忍ぶこと」という意味です。彼女は学校でもバトミントン部に所属し、部活をしつかりやつた後に、書のお稽古に通い作品作りをしたそうです。その努力と活力を審査員に認められ、昨年に続き特別賞受賞という快挙をなすとげられました。バトミントンの腕前も石川県の代表選手にもなった程なのです。受賞

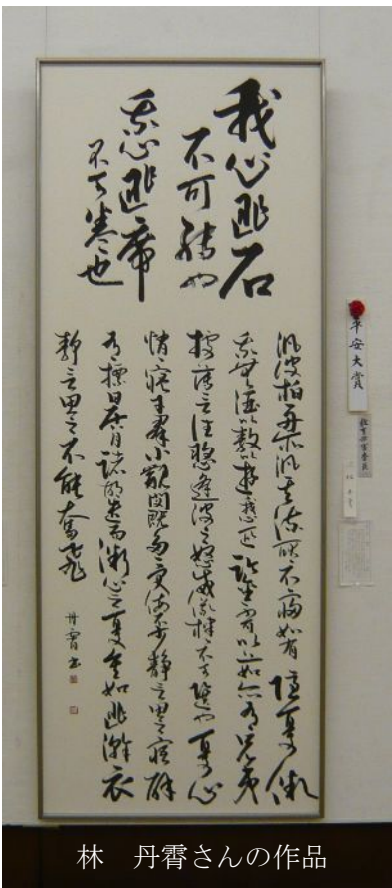
第91回						平安書道会書道公募展						特別賞受賞者	
平安 特別大賞	林丹霄	太田富美				平安 準大賞	桶谷美峰						
奨励賞	藤伊道子 桶谷哲也	西尾菫泉 松井松醇				京都府知事賞	山上秀子	多保田真歩	大井絵給子	亀田遥			
京都市市長賞	東志小美	椿下依舞				京都市教育委員賞	山本千尋		北帆夏	藤田愛菜			
京都市教育委員長賞	小酒友悠	津田智貴				京都市商工会議所賞	中西大輔	西出真唯	長田千尋	西村彩			
平安書道会会長賞	黒田幸子					神田喜一郎賞	加藤輝雄						
吉澤義則賞	北出円佳					綾村坦園賞	塚原正治						
朝日新聞社賞	山口慧石	埴田明里				毎日新聞社賞	伊藤知子	北菜月	堀琴乃				
京都新聞社賞	吉岡真知子	岡田真華				読売新聞社賞	澤崎康子	藤井文歌	天山真優				
京都新聞開発(株)賞	長崎由莉	河野雅子				芸術新聞社賞	高木あいり	山本ゆうり	高井ひかり	永井沙也加			
京都銀行頭取賞	番橋春希	上田真由				墨運堂賞	関戸湖風	国本理沙	東富士士	中田優香			
呉竹賞	細谷基生那	本谷きぬ				川本愛里	植田将英	伊舟城あかり	大田賢人	山下あき枝			
エネスコ会長賞	川本愛里	野口微風子	武田直之	西垣萌衣									



平安大賞に選ばれたのは林丹霄さん。「詩経」の一節を書いたの受賞です。受賞のお祝いの席に出席した林さんは、その日が誕生日ということ、会場がわきました。

(次頁に続く)





林 丹青さんの作品

我が心 石に匪ず 轉がす可からざる也。
我が心 いしろに匪ず 卷く可からざる也

詩経のことば
のように、不動
の心をもつて書
にはげむ心意気
がうかがえました。



亀田遙さんは、小松市立海中学校の三年生。学校では吹奏楽部員でもあります。受験勉強もしつかりこなし、授業のあとには部活の練習、帰宅して夕食を食べてから、西田紫山先生のお稽古に通うというがんばりで、京都府知事賞という大賞をみごと受賞されました。

「格物致知」という言葉は、西田先生と決めたそうです。物事の道理や本質を深く追求し理解して、知識や学問を深め得るという意味で、『大学』という中国の古い書物に出てくることばです。今度は受験ですね。そのファイトで乗り切り、来年は高校生としての作品をぜひ見せてください。



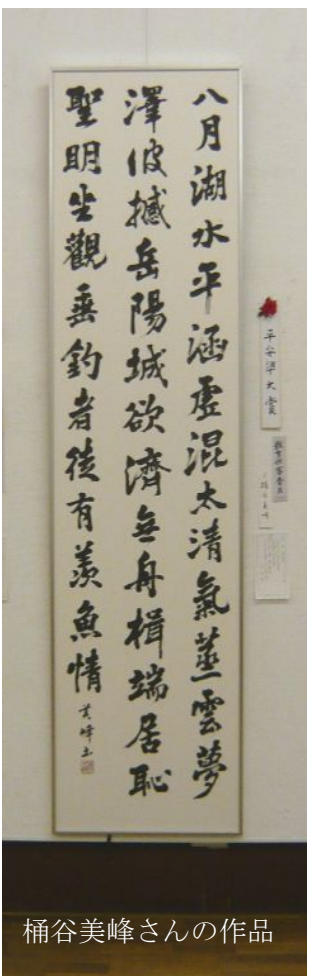
さて、平安書道会には、ご夫婦で会員の方がたくさんいらつしやいます。でも同時に受賞というのは珍しいことでしょう。今回みごとに夫婦ダブル受賞に輝いたのは、桶谷美峰さんと桶谷哲也さんです。美峰さんは平安



桶谷哲也さんの作品

準大賞、哲也さんは奨励賞をそれぞれ受賞されました。

哲也さんは、じつに七年ぶりの受賞です。篆刻。納得のいく作品を作っていききたいとのこと。おめでとうございます。



桶谷美峰さんの作品

